

Contents



はじめに	3
<b>1章 はじめての墨彩画</b>	9
はじめにそろえたい道具	10
基本の描き方	11
直筆と側筆	11
没骨と鉤勒	12
テクニク1 筆先の色を濃くする	12
テクニク2 筆先に別の色をつける	12
テクニク3 絵の具をつけた側を上にして描く	13
テクニク4 にじみ	13
テクニク5 かすれ	13
ウォーミングアップ1 松ぼっくり	14
ウォーミングアップ2 西瓜	15
ウォーミングアップ3 姫だるま	16
ウォーミングアップ4 蛙	17
ウォーミングアップ5 椿	18

**2章 はがき絵を楽しむ**

春

土筆

山吹

チューリップ

藤 お雛 紅梅 桜草

夏

紫陽花

向日葵

金魚

金魚と蓮

酸漿

葡萄

秋

女郎花

無花果

クリスマスリース

福寿草

水仙

石路

赤蕨と慈姑

松飾り

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34







吉祥の顔彩24色セットの色名

上朱 (じょうしゆ)	鮮光黄 (せんこうき)	黄土 (おうど)	燕脂 (えんじ)
本藍 (ほんあい)	群青 (ぐんじよう)	綠青 (ろくしよう)	花白綠 (はなびやくろく)
胡粉 (ごふん)	黒 (くろ)	代赭 (たいしゃ)	紅 (べに)
白群 (びやくぐん)	淺葱 (あさぎ)	青草 (あおくさ)	紫 (むらさき)
若葉 (わかば)	鶯茶綠 (ういげちろく)	金黄土 (きんおうど)	群綠 (ぐんろく)
栗皮茶 (くりかわちや)	青瓷 (せいじ)	辰砂 (しんしゃ)	紅梅 (こうばい)

## はじめにそろえたい道具

○**筆**—初心者の方は、まず付立筆の中筆と小筆をそろえましょう。  
○**墨**—茶墨（油煙墨）でも青墨（松煙墨）でもかまいません。本書では、薄茶系の黒の色のみの油煙墨を使用しています。  
○**硯**—墨がよくおりる使いやすいものであれば何でも結構です。  
○**顔彩**—十八色か二十四色のセットがあるとよいでしょう。本書で

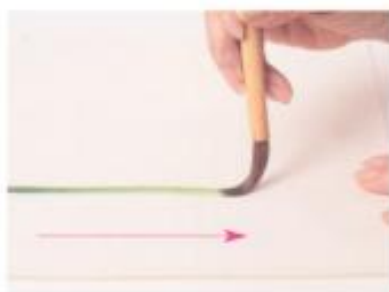
は、吉祥の二十四色セットと、別売りの焦茶、洗朱、古代緑青を使用していますが、混色によって近い色を出すこともできますので、まったく同じものをそろえる必要はありません。

○**紙**—中国製の画仙紙で半紙大のものが、描きやすく価格も安いのでおすすめです。94頁掲載のはがき絵では、水彩紙も使用しています。紙によって、にじみやかすれの具合や描き味が異なるので、いろいろ試してみたいかがでしょうか。

○**筆洗**—中が二つに分かれたものを使いやすいと思います。  
○**絵皿**—色の具合を見るためなので、梅皿か白い小皿を用意します。  
○**下敷き**—白のフェルト製。  
○**布巾**—筆拭き用なので、古いタオルでも何でも結構です。

基本の描き方

直筆と側筆



【直筆】主に細い線を描く時の筆づかい。筆管を立てて穂先が線の中央を通るように描く。



【側筆】主に太い線や面を描く時の筆づかい。筆管を寝かせて穂先が線や面の端を通るように描く。



1 はじめに筆洗の水で筆をよく洗う。



2 筆拭き用の布巾で軽く水気を取る。



3 筆の穂先に顔彩をつける。



4 絵皿の上で色の具合を見る。



5 用紙に描く。



没骨と鈎勒  
もっこつ こうろく

「没骨」 線を使わずに色や墨の面だけでもものの形を表す描き方。



「鈎勒」 輪郭線でもものの形を表す描き方。



テクニック1 筆先の色を濃くする



筆の穂に顔彩をつけた後、もう一度先端にだけ同じ色を重ねつける。



一つの色をつけた後、さらに筆先に同じ色を少量つけて描くと、筆先が通った部分が、より濃くなります。

「没骨+鈎勒」 面と線を組み合わせると、いっそうメリハリのある絵になります。はじめに面を描いてから輪郭線を加えても、はじめに輪郭線を描いてから面を加えても、どちらでも結構です。



テクニック2 筆先に別の色をつける



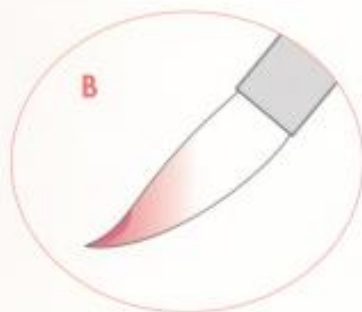
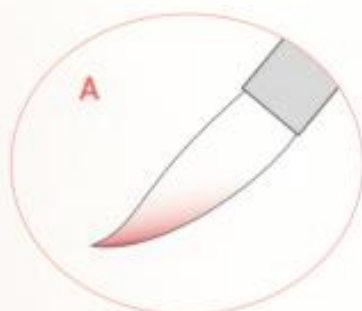
筆の穂に顔彩をつけた後、先端に別の色を重ねつける。



一つの色をつけた後、筆先に別の色を少量つけて描くと、二つの色が混じったグラデーションになります。

テクニック3 絵の具をつけた側を上にして描く

11頁の「基本の描き方」の⑤の時、筆の状態は下図のAのようになります。側筆で描くと、筆先の部分は色が濃く、筆腹の部分は淡くなって、自然な濃淡が出ます。濃淡をよりはっきり出した場合は、この筆をひっくり返して、絵の具がついた面を上にして描いてみて下さい（下図B）。色の濃淡を簡単に出すことができます。



上図Bの状態で描くと、濃淡がはっきり出る。

テクニック4 にじみ

絵の具の水分を多めに筆にたっぷりつけて描くと、絵の具がにじんで、うるおいのある表現ができます。



テクニック5 かすれ

絵の具の水分を少なめに、速い筆づかいで描くと、かすれを出すことができます。





出来上がり。

松ぼっくり



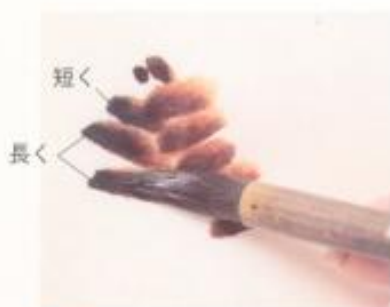
若い松ぼっくりは色鮮やかにはっきり描きますが、乾いて色あせたようなものは、筆の中の水気を少なくしてかすれさせると、また違った風情が出ます。



1 焦茶をつけた筆の先に少量の墨をつけ、松ぼっくりの先端に小さな点を二つ打つ。



2 筆を横に倒して真ん中の列に点を五つ打つ。



3 穂先に少し墨を足して、左側の列に斜めに五つの点を打つ。上と下の点は短く、真ん中あたりの点は少し長めに描くと立体感が出る。



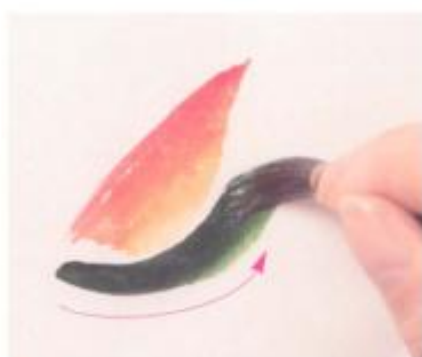
4 同様に右側の列に斜めに点を打つ。

ウオーミングアップ1  
松ぼっくり 点だけで描く

はじめに、点だけで描ける簡単な例をご紹介します。焦茶と墨をつけた筆を軽く置くようにして、中央の列、左側の列、右側の列と、リズムカルに点を打っていきましよう。途中で筆を整える必要はありません。一つ一つの点に自然な濃淡が出るので、松ぼっくりらしい立体感が表現できます。



西瓜 すいか 側筆の二筆で描く



3 古代緑青を含ませた筆の先に本藍をつけ、下から上に弧を描くように動かして皮を描く。



1 洗朱を含ませた筆の先に辰砂をつけ、筆を寝かせて斜めの一筆で実を描く。



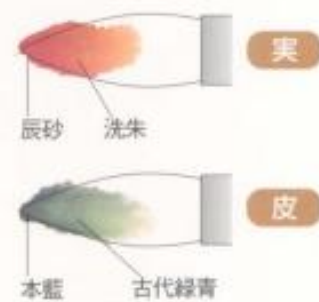
4 墨で種を描く。実の中心から放射状に点描を入れると、自然な種の位置に見える。



2 はじめに筆を入れたら徐々に押さえぎみにして太くし、その後ゆっくり上げて細くすると半円形の実の形になる。



出来上がり。



西瓜の赤い実と緑の皮を、それぞれ一筆で描きます。果物は、新鮮でおいしそうに見えるように描きたいもの。そのためにも、前に使った色が残らないように筆をよく洗うことが大切です。色鮮やかに描きましょう。



右図のように洗朱と辰砂をつけた筆先に、さらに少量の本藍をつけて実を描いた例です。

